

## 今月の御教え

人間はみな天地金乃神から人体を受け、御霊を分けていただき、日々天地の調えてくださる食物をいただいて命をつないでいる。昔から、天は父、地は母というであろう。天地金乃神は人間の親である。信心をする者は、一生死なない父と母に巡り合い、おかげを受けていくのである。

……「天地は語る」第四十五条……

## 解説

教祖直信、山本定次郎師が青年期、初参拝の折、金光様が五里も隔てた建物、道、方角などが全てお分かりになられるのを、不思議に思い「どうしてそのようなことがお分かりになるのですか」と、お伺いすると、金光様は「肉眼を置いて心眼を開けば分かる」と仰せられた後「人間は、どうして生まれ、どうして生きていくか」ということを知らねばなりませんあ！」と仰られ、続いて山本青年に懇切に教導されたのが、冒頭の御理解であります。

我々人間は、死んでから御霊になるのではなく「生まれるときに神様から分霊（御霊）を頂いて、この世に生れ出たのであり、死して身体は元の大地に還り、御霊は神様の懐である天地に還るのである。天地金乃神様は我々人間の親であり、信心させて頂く私達は、一死しない親に巡り合いお蔭を受けてゆくのである」と教えられました。私達は、この広大無辺の御神示を確と受けさせて頂いて、日々の信心の稽古に励ませて頂きたいものであります。